

令和5年度 上田市立 長小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価																
かしこく きよく たくましく	◎「かしこく」 自分をふりかえり よく考える子 (知) ◎「きよく」 ともだちとかかわり 思いやりのある子 (徳) ◎「たくましく」 すすんで取り組む ねばり強い子 (体)	<ul style="list-style-type: none"> ・長の自然に触れながら、様々な体験をし、学級の中で助け合って学習や行事を行うことができた。 ・「かしこく」「きよく」「たくましく」とも、年々達成されている子が増えているように感じる。 ・自己発揮は不易な部分として信じ続け、揺るがずただひたすらに邁進した1年だった。自己発揮は、特段難しい話ではなく、その子やその学級を見て、その子(たち)のためになるだろうことを教師の意図とすり合わせながら調整し続ける営みでしかなく、これは教師が本来尽くすべき務めであると思う。教師の都合ではなく、あくまでも子どもの実態をもとにした関わりによって、重点目標は達成されていくと思うと本年度の取り組みはおおむね成果とらえたい。 ・クラスが好きて、居場所となっており、お互いに褒め合える関係にあるので、目標に少しでも近づけているかと思う。 ・学級の状態はよくなってきているが、一部の保護者の理解が得られなかった。 ・「忙しさ」を理由に児童と向き合う姿勢をなくし、最低限の指導しかしてこなかったことが、振り返りから見えてきた。 																
	今年度の重点目標	<table border="1"> <tr> <th>成果と課題</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>改善策・向上策</th> </tr> <tr> <td>・子どもをみとる力の必要性を強く感じました。・職員会で各学年ひとりの子どもを追ってグループで考えていくことは児童理解にもつながりよかった。自己発揮できる子どもの育成の前提として、学習に向かう態度の育成、私たちの授業づくりも考えていく必要がある。・「自己発揮」の捉えが職員一人一人違い、ある程度方向性が定まったところで「自分らしさ」といまいな方向に進み、目指す方向が定まらない。・苦手なことにも取り組む中で、自己発揮をしながら「できた」「わかった」「うれしい」という思いになり、自尊感情につながればよいと思う。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期後半から「課題解決に向けて自分なりに試行錯誤する姿」と位置付けて、姿を追ってみた。 ・自己発揮の先のつけるべき力(具体的かつ明確な力)を職員で話し合って決めだし、そこを目指せばよいのではないかな。 ・そのための支援はどうあったらよいかな各教科で考えるとういかな。 ・よさを学級、学校生活のどんな場面で生かせるかを考え、支援していけるように心がけていきたい。 </td> </tr> </table>					成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	・子どもをみとる力の必要性を強く感じました。・職員会で各学年ひとりの子どもを追ってグループで考えていくことは児童理解にもつながりよかった。自己発揮できる子どもの育成の前提として、学習に向かう態度の育成、私たちの授業づくりも考えていく必要がある。・「自己発揮」の捉えが職員一人一人違い、ある程度方向性が定まったところで「自分らしさ」といまいな方向に進み、目指す方向が定まらない。・苦手なことにも取り組む中で、自己発揮をしながら「できた」「わかった」「うれしい」という思いになり、自尊感情につながればよいと思う。		○			<ul style="list-style-type: none"> ・2学期後半から「課題解決に向けて自分なりに試行錯誤する姿」と位置付けて、姿を追ってみた。 ・自己発揮の先のつけるべき力(具体的かつ明確な力)を職員で話し合って決めだし、そこを目指せばよいのではないかな。 ・そのための支援はどうあったらよいかな各教科で考えるとういかな。 ・よさを学級、学校生活のどんな場面で生かせるかを考え、支援していけるように心がけていきたい。
	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策												
・子どもをみとる力の必要性を強く感じました。・職員会で各学年ひとりの子どもを追ってグループで考えていくことは児童理解にもつながりよかった。自己発揮できる子どもの育成の前提として、学習に向かう態度の育成、私たちの授業づくりも考えていく必要がある。・「自己発揮」の捉えが職員一人一人違い、ある程度方向性が定まったところで「自分らしさ」といまいな方向に進み、目指す方向が定まらない。・苦手なことにも取り組む中で、自己発揮をしながら「できた」「わかった」「うれしい」という思いになり、自尊感情につながればよいと思う。		○			<ul style="list-style-type: none"> ・2学期後半から「課題解決に向けて自分なりに試行錯誤する姿」と位置付けて、姿を追ってみた。 ・自己発揮の先のつけるべき力(具体的かつ明確な力)を職員で話し合って決めだし、そこを目指せばよいのではないかな。 ・そのための支援はどうあったらよいかな各教科で考えるとういかな。 ・よさを学級、学校生活のどんな場面で生かせるかを考え、支援していけるように心がけていきたい。 													
「自己発揮できる子どもの育成」																		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	授業・研究	子どもの実態をもとにした授業・研究～「健康教育」「人権教育」を柱として～	日々の授業の中で子どもの実態を蓄積し、教職員で共有することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・特支・専科の先生等と、子ども中心の会話ができ、その姿を共有できた。 ・単級なので、日々の先生方からの教材についての助言ありがたい。 ・教職員で共有できるような職員室の雰囲気をつくりたい。 ・職員会で定期的に話し合う時間があつたので共有につながった。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会の児童理解は、何かある学年ではなく、以前のように各学年が基本的に話をするという形の方が共有しやすいと思う。時間がなければ連絡会の時間に行う。
			子どもの実態をもとに、子どもとつくる授業づくりができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづきを予想し、教科や学習カードを工夫して作成することで、子どもが学びやすいように支援した。 ・教師主導の場面が多い。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・教師(指導)のあり方を探りたい。
			研修会を年間通して行い、外部講師から、子どもの実態のとらえ方を見ることについて学び、それを日々の実践に生かすことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の課題に直結した外部講師を招き、多くの示唆をいただけた。 ・「自己発揮」に焦点を当てて研修をさせていただいた。回数を少し減らしてほしい。 ・目指す方向が見つけられなかった。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教材研究(本校では、理科と英語)の時間を確保したい。
	学級	一人ひとりの居場所がある学級～良さを認め合う活動を柱として～	一人ひとりの自信(自尊感情)につながる場を設定し、継続しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりを応援し、つまづきを支援し、できたことをたくさん褒める支援をした。 ・一人ひとりにまでたどり着いていない 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・誰一人として取りこぼさない教師のみとりが大切。 ・子どものよさを学級の活動の中で生かせるような支援をしていきたい。
			子どもの実態を的確につかむために、子どもと対話し、教育相談を学期に1回行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの対話や相談から、支援のあり方を考え、家庭にも伝え、学校と家庭でその子を支援することができた。 ・個に対する対応が弱かった。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きっぱなしではなく、メモを取るよう心がけた。 ・子どもとの対話をしっかりすることが、子どもたちの不安の解消につながっているように思う。
			家庭・学校・地域へ広がる あいさつ活動を進めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習や児童会の取り組みで、あいさつができるようになってきた。 ・こちらから先にあいさつをするのを心がけた。 ・金管クラブ内でも、活動の中で「あいさつ」を大切にしている。 ・なかなか気持ちのいいあいさつにつながらない。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の取り組みに、全校が協力できるように呼びかける。 ・継続していきたい。 ・あいさつのしかたが、とても気持ちよくなってきた。
地域	地域と共に歩む～長っ子コミュニティスクールを柱として～	子どもの思いや願いと地域の素材をかけあわせた教育活動を取り入れることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・長の自然を体験し、満喫することができた。長は自然の宝庫。1・2年生の生活科にはもってこいの地域。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知ること。学校田には多様な生き物がいることを教育計画に明記しておく。 	
		長の自然・歴史(真田)・文化・伝統に学ぶ体験活動や交流活動を取り入れるために、地域の人材を発掘することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りでは、ボランティアの方に見ていただき、たくさん収穫することができた。 ・ふれあい伝承広場では、地域の皆さんとつながることができている。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・長地区(または真田地域)の「人材バンク」を総合的な学習等の教育計画の中に盛り込んでおけるとよい。(例えば節分は山家神社、そば・とっかんは福田さん) 	
児童会	願いの実現に向けて団結できる児童会～役立つ喜びを得る活動を柱として～	子どもたちの願いの実現に向けて、人に役立つ喜びを得られる活動を取り入れることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜販売は継続したらよいと思う。 ・「人」の解釈を世界にまで広げ、相手意識を持った取り組みができた。半面相手を捉える難しさがあった。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会に一つの大きなテーマがあることで、それに向けて各委員会内で内容を決めだして一つになっていくことができる。 	
		子どもたちは、活動を通して自己有用感をもつことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・放送委員は、責任のある仕事で緊張や反省も多いが、達成感を感じていることがうかがえた。 ・野菜販売、長小祭りで自分の役割で活動する中で有用感を得ていた。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・長小祭りは、子どもたちが一つにまとまったり、役割を果たすことで自己有用感が高まるので大切にしたい。 	
学校運営		情報の発信	学校だより、学年だより、ホームページ、学校メール等で、自己発揮している子どもの様子を知らせているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を多めで、お便りを発信した。 ・内容を工夫したり、学年の様子を紹介することができた。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年のお便りが常時掲示されているとよいと思った。職員室内に掲示をしたい。
		家庭との連携	連絡帳、電話連絡、訪問などで、自己発揮している子どもの実態を中心に家庭との連絡を密にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や電話でその子のがんばりやよさを家庭に伝えることができた。 ・保護者に支援会議等で子どもたちの様子を具体的に伝えることができたように努力した。 ・事務連絡のみであった。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・困った事案が発生した時に電話連絡をしがちだが、その子のよさが発揮された時にこそ保護者に伝えられるとなお関係性が向上する。
		危機管理	学校メールを活用したり見守り隊と協力したりしながら、児童の安全・安心を確保しているか。非違行為研修に取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理の話があるたびに、学年に応じた言葉で指導してきた。定期的な指導をしてこなかったと振り返った。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・非違行為研修は、自己に役に立つもので有り難い。 ・廊下を走る姿が多い。怪我をする子もいるので、歩くように呼び掛けていく。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった